

以下の【問題文】を読み、下記の【設問】に答えなさい。

【問題文】

権力は、それぞれの儀礼をもっている。このため権力の集積する都市は、さまざまな儀礼が演出される場となった。しかし都市においては、あまりの儀礼の多さから、そのすべてを尊重することはできない。もし、すべての礼を行うとなると、儀礼だけで時間が過ぎてしまうことになる。したがって、ありきたりの礼は省略せざるを得ない。このため都市は〈失礼〉な場所であるし、また〈失礼〉が許される場所となったのである。

都市は大規模なものであればあるほど、人や物資が大量にかつ速度をもって移動していた。さまざまな情報の飛び交う都市では、大量の人員と物資とを動員できる条件が刻々と変わっていく。都市では工夫次第でさまざまな人的、物的資源をこれまでとは違ったやり方で一瞬のうちに動員できた。都市にはそうしたチャンスが短い時間に発生したり、消滅したりしていた。都市では速度（speed）が成功（speed\*）の条件となるころだった。このため都市では、さまざまな企て（business）が次から次へとなされた。都市はともかく忙しい（busy）ところであった。さまざまな情報が〈新しいルール〉を生み出す素材となり、既存の知識が相対化される都市では、人びとは柔軟な態度でものごとに臨んだ。都会人の示す〈革新的〉で〈開放的〉な性格は、こうしたなかで培われたのである。

（中略）都市で作り出される多種多様なルールのうち、その一部は制度化され人びとの生活を秩序づける。都市は価値観や生活様式、はては服装、音楽、ことばの流行にいたるまで、さまざまな側面で農村の人びとの生活を秩序づけていくのである。しかもその一部は国家権力によって「法制化」され、その遵守が義務づけられている。これに対して、農村で作り出されるルールで〈制度化〉されたり〈法制化〉されたりするものはめったにない。たとえあったとしても、その適用範囲は一部だけに限られている。人びとの生活を制度化したり、法制化したりする新しいルールは都市からやってきた。しかも、都市のルールはいつも新しい「文化」を担っているのである。

農民といえども、その生活の大部分を秩序づけているのは、実は都市のルールである。農民の日々の生活は以前に受け入れた都市のルールに沿って営まれているのである。しかし農民はやっとのことで都市のルールを定着させたかと思えば、すぐまた別の新しいルールが都市からやってきた。もちろん、農民もこうしたルールの変化で、思わぬ幸運を手にしなかったわけではない。しかし都市で生み出された大多数の新しいルールは、農民が生み出すものの価値を相対的に低下させようとするものであった。都会人が〈革新性〉や〈開放性〉を示すのに対して、農民が〈保守性〉や〈閉鎖性〉を示す理由がここにある。

しかもそのルールが農民を対象とするものであったとしても、それが都市で生み出されているものである以上、都市の利害が巧妙に滑り込んでいた。この意味で、農民の頑固さは当然といえば、当然だった。農民も農村で作られたルールに対しては、きわめて〈革新的〉で〈開放的〉な態度で臨んだのである。

都市では人びとの要求を解放し、それを自己のルールのもとに統合しようとするあらゆる可能性が追求されている。しかしこうした活動のなかで、都市は交通混雑、大気汚染、騒音、不良住宅などの物理的問題のみならず、少年非行、薬物中毒、売春、犯罪、貧困などの社会問題の舞台となるのである。

しかし都市問題といわれるものの中身をよく検討してみると、その実、何も都市だけでなく農村でも同じように起こっていることが多い。なるほど、通勤混雑や大気汚染などは都市に特徴的な問題なのかもしれない。しかし少年非行、薬物中毒、売春、犯罪、強盗、不良住宅、貧困などは、農村でも都市と同じように発生しており、取り立てて都市に特徴的な社会問題ということではない。ただ、人口の密集する都市では、そうした問題が大量に発生するのである。都市問題のひとつの特徴は、社会問題が大量現象として起こることである。

とくにそれが物理的施設にかかわる場合には、新しい技術が生み出された。都市は出現以来、城壁や神殿から道路や水道にいたるまで、さまざまな建築技術を発展させてきた。現代では、高度な技術をとまなう高速道路や地下鉄の建設が、増大する交通に対応するために不可欠なものとなっている。また、そうした都市問題の解決や緩和が、さらなる都市問題をもたらす原因ともなってきた。したがって、古来、都市の物理的な問題は、それほど変化しているわけではない。都市はいつの時代にも、住宅問題、環境問題、輸送問題など、同じような問題を抱えている。もっともそれでいて、都市問題のあり方はいつの時代も違っているのである。

ところで、都市問題はこの「量」の問題に加えて、もうひとつ別の問題をもっている。都市は〈新しいルール〉が生み出され、それが正当化される場所である。都市では社会問題とされるものでも、それが往々にして新しい正当性を獲得することである。

(中略) 都市では、それまで忌み嫌われていたものまでが、一転して新しい文化となり得るのである。しかもそれは、時とともに広がっていく可能性をもっている。

こうしたことから、都市が人間の本来のあり方から逸脱し、墮落した場所だとする考え方も古くから生み出されてきた。都市は人間の偉大な創造物として讃えられる一方、悪徳の巣窟として、非難の的ともなってきた。

\*出題者注：小学館ランダムハウス英和大辞典第2版より「《古》幸運, 成功」

(藤田弘夫『都市の論理—権力はなぜ都市を必要とするか』(1993年, 中央公論社))

### 【設問】

問1 筆者は、この文章に先立って、「都会の人だとか、田舎の人、といったいい方の善悪は別にして、都市民が一般的に〈革新的〉〈開放的〉性格をもっていることは確かであろう。これに対して、田舎の人は一般的に〈保守的〉〈閉鎖的〉性格をもっている」と述べている。筆者がそのように評価する理由を説明しなさい。

## 小論文

問2 下線部に関する，次の問に答えなさい。

- (1) 筆者が本書を上梓してからおよそ30年を経て、現在の日本社会は本書が分析の対象とした社会そのものということとはできないが、現在の日本社会でこうした事例にどのようなものがあるか。
  
- (2) 上記(1)で挙げた事例が「正当性」を獲得することに賛同するか否か。「正当性」を獲得することのメリット・デメリット双方を挙げつつ、説明しなさい。

(100点)